この世界の片隅に

ファンブック
制作進行中!!!!!

(7月28日発売決定)

漫画家や作家からの寄稿、
有名人・著名人のインタビューや対談、
そして、片渕須直監督、こうの史代先生を始めとする
関係者インタビュー等、
『この世界の片隅に』への愛が詰まった1冊!!

村上たかし　後藤羽矢子　ふみふみこ
広江礼威　能田達規　吉本浩二

次ページより！

ファンブックに収録するものの中から、
本誌では先行してこちらの6名から頂いた
原稿をお届けします!!

登場するキャラクターの中で一番好きなのは「水原哲」

「想い」を胸に秘めながら

死に場所を探すように生きている男——

それが最後 すずの父が亡くなり 母も見つからず

死をイメージすることすら なかったであろう 晴美ちゃんまで

死んでしまうのに 一番 死に近かったであろう彼が 生き残るってのが もうね………

この圧倒的な 理不尽さの中に 朧のようなわずかな希望が 含まれているのが 全くもって「世界」だなぁと

ちなみに
原作のこうの先生とは
同じ比治山大学（広島）
ってところで漫画を
教えてるんですが
こうの先生とは古い知り合いでこの学校も一紹介してもらった
持ち込みや打ち合わせで
厳しい批評や
時には納得できない
ダメ出しにさらされて
揺らいだり――
自分への甘さから楽な方に
流れたりするであろう
学生たちに
先生がアドバイスするのは
いろんな人にいろんな事を言われるでしょうけど
必ず覚えておいて欲しいのは――
「あなたのその作品を守れるのはあなたしかいない」ってことです
――映画はとても大きなお金が動くので余計な思惑や横やりが入りがちです
作品とは関係ない事情が障害になるなんてしょっちゅうです
そんな中で『この世界の片隅に』――はこうの先生の言葉のように
作り手が一切の妥協をせず
採算や時間を無視したような細部へのこだわりとか表現のつきつめかたがー
この世界の片隅に
非常口
自分の作品として本当にスクリーンの隅から隅まで守り切った映画だなぁと思いました
この偉業を成しとげた監督とスタッフの皆さんそしてクラウドファンディングで支えた多くの方々に一観客として尊敬と感謝を

後藤羽矢子

『うわばみ彼女』(①~③巻)『おさな妻の星』(①~②巻)『アスクミ先生に聞いてみた』連載中

原作ではこの周作さんの言葉、さらっと流してしまったんですけど映画ではハッとさせられました

この家がすずさんの居場所じゃないことに気づいてたのかよ！みたいな…

飛行機の銃撃受けながら、死ぬかもしれないさなかにこんな心の根幹に迫る会話をしてるふたり…

ずっとここは知らん男のよその家のまんまか

広島に帰ると口で言いながら
周作さんの手に触れている
すずさんの心の揺れが切ない…

ふみふみこ
ビッグガンガンで『キューティーミューティー』（①～②巻）連載中
わあ〜 リンちゃん すてきじゃね…
本物の軍人さん みたいじゃわ
ほんじゃけど ええんかね そんな かっこして 怒られはせん ですかね
怒られる どころか 大喜びじゃわ
お得意さんの ご要望 じゃけーねー
きゃーっ
ちょっとでてくるね
そのままで？
そりゃいけんわー
変わった趣味の 人もおるもん じゃね〜
ん？
すずさん
また迷子に なっとる
どしたん お嬢さん
はぁ あの 道に迷うて しまいまして…
ポム
にこっ

それは大変じゃ
び
美男子……！
送って行きましょう
はっ
ええにおいじゃ！
あのっ
いえ
けっこうです…！
うちようちじゃ
すずさん顔赤いけどどしたん
ほほうですか？
大丈夫？
だいじょうぶです
すずさんて
もう周作さんのこと怒れんね…

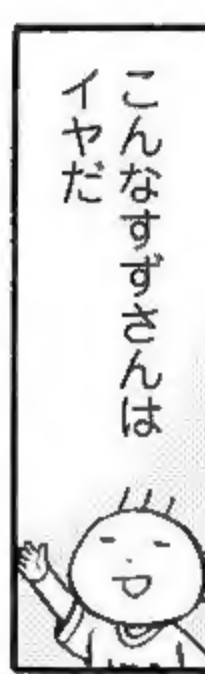
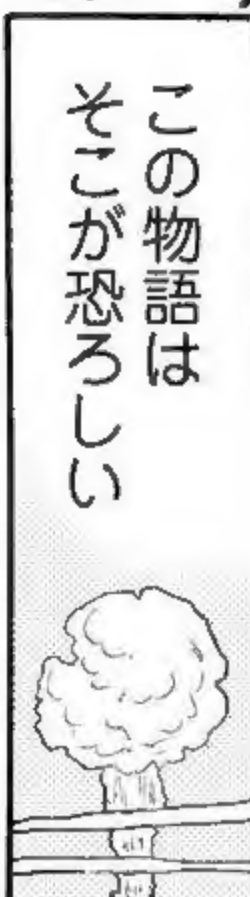
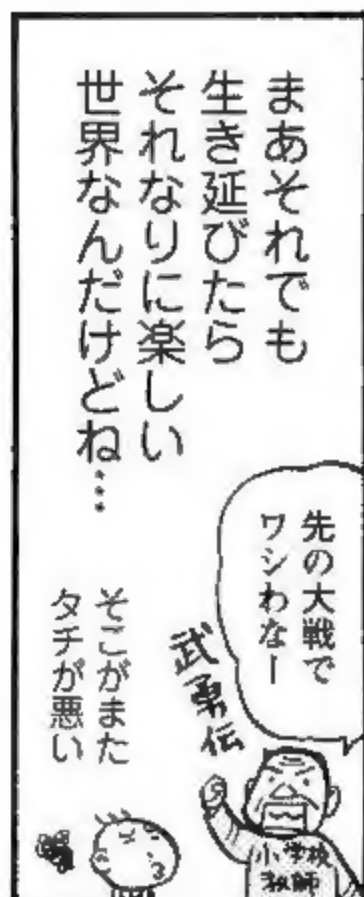
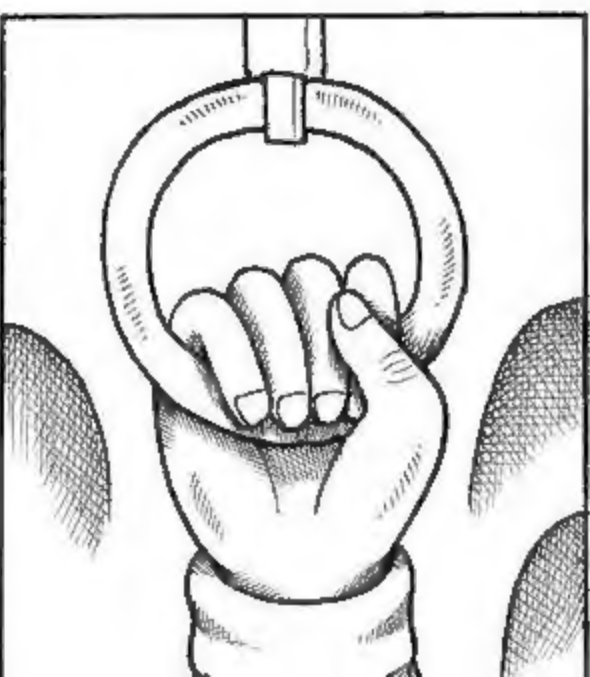
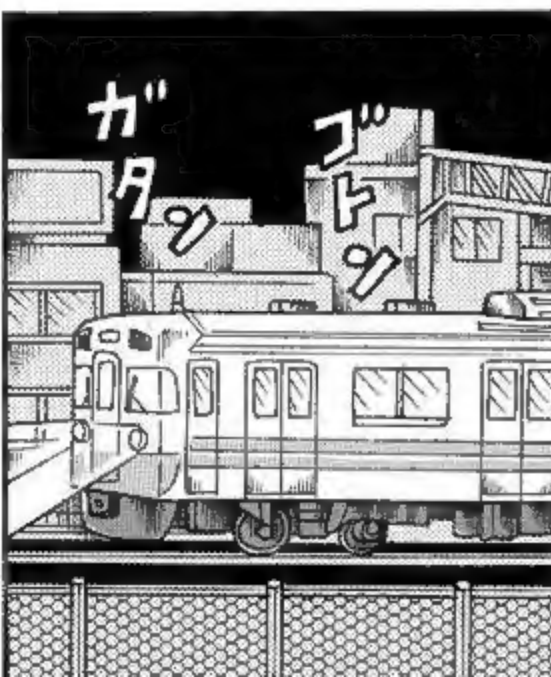
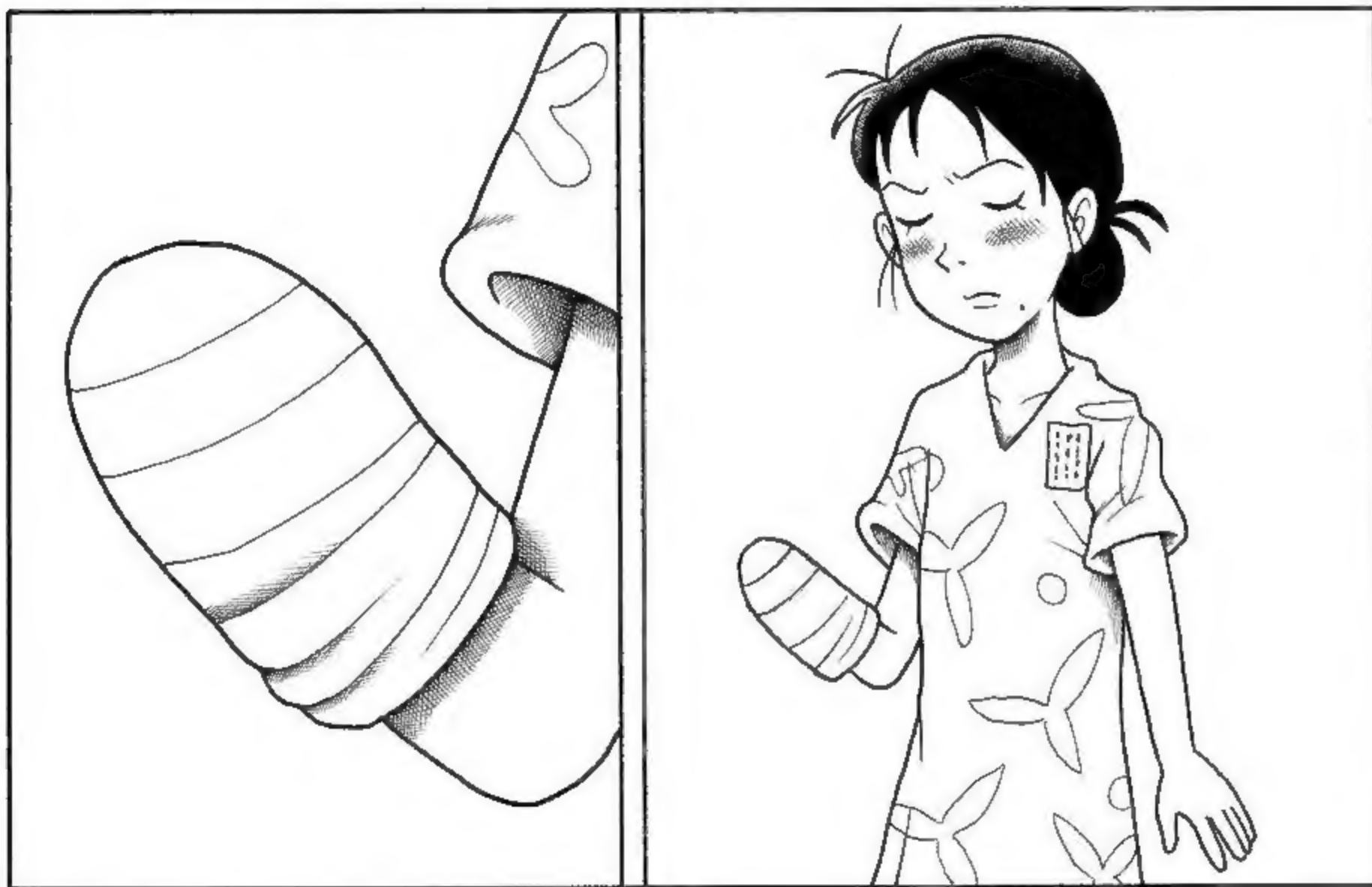
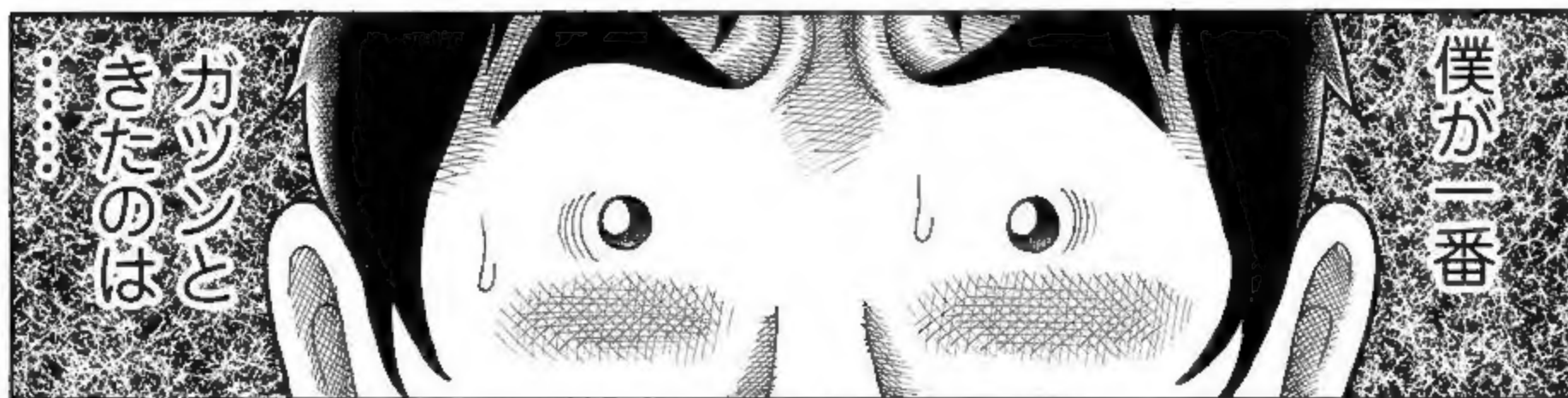
広江礼威（ひろえれい）
「月刊サンデーGX」（小学館）にて
『ブラック・ラグーン』（①～⑩巻）連載中

語る事は多いけれど
なかなか語りつくせない
この作品。
個人的には径子さんもまた
時代に翻弄された一人で
あったかと思います。
現代なら立派な
キャリアウーマンにでも
なってそうな径子さん。
サブキャラまで血がしっかり
通っているのが
この物語のスゴイ所です。

能田達規（のうだたつき）｜代表作『マネーフットボール』『オーレ!』『ぺろり!スタグル旅』を連載中

『この世界の片隅に』を見て

「ビッグコミックスペリオール」にて『淋しいのはアンタだけじゃない』を連載中。次号より、本誌にて新連載『ルーザーズ』がスタート！

いろいろ思うこと感じること本当にたくさんありましたが…

子供の頃から
絵が好きで…

絵を描いて

人に見て
もらうことが

自分の
一番の

生きがい…

…そんな人間にとって
それを
失うということは…

あのバイバイする
右手のカットを
カリ
カリ
カリ
カリ
僕は一生
忘れないで
しょう…

特別寄稿は次号も掲載!!